

みつくら

令和 4年10月15日 第372号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

県芸術祭の写真部門賞に板垣さん

9月11日、第75回岩手芸術祭写真部門の公開審査がコロナ禍のために3年ぶりに行われ、その結果が9月26日の岩手日報に掲載された。それによると写真部門賞に板垣弘清さんが選ばれた。板垣さんはこれまで、現展や二科展、東京都美術館の総合写真展などに入選しているほか、読売新聞写真コンテスト、県歯科医師会主催の「イー歯トープ笑顔の写真コンテスト」、岩手日日写真コンテスト、花巻農協オリジナルカレンダーフォトコンテストなど多くの入賞を果たしており、最高賞である岩手芸術祭賞の栄誉にも輝いている。

また、板垣さんの個展は記録があるだけでも盛岡市や花巻市で5回を数えている。

県芸術祭の総合展示は、10月20日から23日まで県民会館で開催される。盛岡に行った際は立ち寄られ、鑑賞してみてはいかがでしょうか。県芸術祭は各地で移動展示があり、花巻市文化会館では、令和5年1月27日から29日までの3日間予定されている。

ドクターヘリの着陸と離陸で砂嵐

9月17日午前8時30分ごろ、突然消防車がサイレンを鳴らして大瀬川運動公園入口に来た。この日、振興センターでは大瀬川地区敬老事業が予定されており、準備のため職員と実行委員数名が来ていた。付近にはサイレンを聞き付けて20人以上が集まっていたため、消防署員から「これからドクターヘリが着陸するのでグラウンドに放水します」「砂や小石が飛ぶので遠くに離れてください」と大声で呼びかけがあった。ヘリコプター着陸時の風圧はすさまじいもので、振興センター玄関風除室の閉まっていた自動ドアが開き、グラウンドの土埃や砂が一気に屋内に入り込んでしまった。下足棚や廊下だけでなく式典会場も土埃で真っ白になった。そのため離陸時には急いで自動ドアにガムテープで目張りをして備え、なんとか砂埃の侵入を防いだが、遠くから見ていた人は改善センターの2倍以上の高さまで砂が舞い上がっていたと話していた。駐車場の車も砂埃を被り真っ白になった。

机や床、廊下やスリッパなど、敬老事業の会場準備は館内の大掃除からとなってしまうが、実行委員が協力し、慶寿の個人写真撮影会が始まる午前10時までにはなんとか会場を整えた。一連の式典まで滞りなく行なうことができたことに、委員一同は改めてホッと胸をなで下ろした。

コロナにも負けずに第4回ブルリ祭を開催

ブルリの杜(熊谷和彦施設長)では10月1日、「第4回ブルリ祭」をコロナ感染対策のため職員と通所者そして保護者を含めた50人で行った。

展示部門では、新たに導入した機織り機で織った生地でバッグ・スリッパを製作し、ブルーベリー染の手拭いやハンカチと一緒に展示・販売したほか、日頃の作業状況や活動をパネルにして展示した。この日は朝早くから保護者の皆さんで模擬店やステージの準備を行って、豚汁や焼きそば、フランクフルトなど美味しい食べ物も沢山並んだ。今年は、隣の菅原房子さん(札立場家)の指導で練習した大瀬川音頭を、ステージで全員が踊り、大いに盛り上がった。今回展示した作品は、大瀬川地区文化祭にも展示する予定となっている。

神戸大学准教授が「賢治やまなし園」を調査

金鑄神(かないがみ)神社にある2本の「やまなし」を10月2日、神戸大学准教授の片山寛則先生が学術調査のため訪れた。案内には石鳥谷賢治の会の2名が協力し生育環境などを調査した。片山先生は理学博士として若い頃にその分野の研究をしていたが、現在は神戸大学農学研究科附属食資源教育研究センター准教授として活躍されている。現在取り組んでいる研究は、食料果樹の接ぎ木に用いる台木としての「やまなし」をテーマに全国の「やまなし」を調査しており、岩手県には約50回も訪れているという。

片山先生は、金矢(金鑄神社)のやまなしを見て「果実から見ると、1本は青なしで、もう1本は赤なしです。青なしは若い枝には鋭い棘があって、木の幹が太くなると目立たなくなり真っ白い花が咲きます。赤なしは赤茶色の果実で棘はなく、薄い桃色の花が咲きます」と教えてくださった。

近年日本中の「やまなし」は、昆虫の減少で受粉が難しくなっているほか、杉などの植林により「やまなし」そのものが少なくなっているため、風による受粉もできにくく「減少の一端」だと話されていた。岩手県で有名な「イワテヤマナシ」も純粋な木は盛岡市玉山区の藪川にしか見当たらなくなり、ほかは殆どが雑種の「やまなし」となっているとのことだった。

金矢の「やまなし」を調査した後に、御所森東にある「宮澤賢治やまなし園」を見ていただいたが、日陰のため木が枯れ始めたのを残念がっておられた。「このやまなしを剪定して果実を大きくしたいが・・・」と片山先生に相談すると「剪定して実を大きくするのはいいが、『宮澤賢治のやまなし』にこだわるなら、当時宮澤賢治が眺めたやまなしの実がその大きさなんだと勘違いされるんですよ」と話された。

日本スポーツマスターズ2022岩手大会に出場

大瀬川地区から板垣雄一さんと板垣伸吾さんが、3年ぶりの開催となった日本スポーツマスターズ2022岩手大会男子バレーボールの部(9月23日~26日)に出場した。6月26日に行われた岩手大会予選会(紫波町)で、雄一さんと伸吾さんが所属するVaboが勝利し、全国大会に出場することとなった。

予選グループ戦は関西電力高浜(福井)に敗れたがSUN(静岡)に勝利し、1勝1敗で決勝トーナメントに進むも、強豪PARADISE(大阪)に惜しくも敗れた。

5度目の出場の雄一さんは、「ベストメンバーで望んだが力の差を感じた」と感想を述べていた。また、初出場の伸吾さんは「楽しくプレーでき大いに楽しめた。いい思い出になった」と感想を述べていた。

2人は毎週、大瀬川構造改善センター体育館で19時~21時までバレーボール愛好家達で練習に励んでいる。

訃 報

○向田家の熊谷定人さんは、9月17日に94歳で亡くなりました。6月に「IMOらぼ」で子供達とさつまいもを植えた時にはお元気でしたのに残念でなりません。熊谷さんは、紫波町佐比内の出身でトミさんと結婚された3年後の昭和27年に八戸酒造店(現在株式会社)に出稼ぎをしてから実に62年間も酒造に携わり、その間、45歳で杜氏試験に合格し2年後に越前酒造店(福井)から杜氏として勤務しました。また、三重県の早川酒造店に18年間勤務していたときに、三重県卓越技能者として表彰され、畠山信幸さんに杜氏を譲ってから顧問杜氏として平成26年まで酒造に貢献されました。夏期には植木職人としても働かれ、平成20年には花巻市シルバー人材センター理事長表彰も受けた方でした。今頃は、10ヶ月前にお亡くなりになられた奥様と再会していることでしょう。大瀬川中央長寿会では、趣味のカラオケを披露し、皆さんを賑やかに導いて下さいました熊谷さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○橋見家の熊谷陽子さんは、9月25日に82歳で亡くなりました。あまりに急なことで、近所の方もびっくりしていました。熊谷さんは紫波町彦部の出身で、高校卒業と共に病院の事務員をしていましたが、橋見家に嫁がれてからは農業一筋に頑張られた方でした。ご主人が農協にお勤めであったため、農業も熊谷さんが中心となって家業を守られました。熊谷さんで思い出すのは、ご主人が黒森神社の役員であったこともあり、毎年の例大祭にはご夫婦揃って前日からの準備や、当日の賄いなどに長年にわたって私達が御世話になったものでした。熊谷さんは温和な方で、地区の多くの方々に親しまれた方でした。昨年、お孫さんが自治医科大学に合格した知らせに、控えめな笑顔で喜んでいた姿が目につきます。交通安全母の会の9区長や、町の栄養リーダー、更には公民館婦人部監事など、多くの役職で地区に貢献されました熊谷さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

この原紙は、平成29年4月に文字数を85字に増やして見やすいように編集したもの。